



チェンマイ大学

Chiang Mai University



●学部学生 約27,000人 ●大学院生 約7,700人 ●教職員 約11,000人

ホームページ <http://www.cmu.ac.th/>

交流協定締結年月日：1990年4月24日 主管学部：農学部



チェンマイ大学正門



第7回チェンマイ大学・香川大学合同シンポジウム



看護学部学生IO長表敬訪問

国際交流の特色

タイ北部のチェンマイ市（首都バンコクから北に飛行機で1時間）に位置する。1964年にタイ北部に最初に設立された高等教育機関として、教育、研究、地域貢献、国民文化・環境の保全に多大な実績を上げてきた。タイの大学ランキングで教育と研究の両面で最高レベルの評価を受けている。2019年に創立55周年を迎えた。市内3ヶ所と周辺1ヶ所を合わせたキャンパスは、1,400haと広大である。21学部、大学院、3カレッジ、1スクール、1研究所を有し、学部生約27,000人、大学院生約7,700人が在籍する。日本に留学したことのある教員も多い。キャンパス内に学生寮のビル群がある。留学生用の上級な寮もある。近年の国際化は目覚しく、ASEANのハブ大学としてメコン川流域圏のミャンマー、ラオス、カンボジア、ベトナム等の周辺国から積極的に学生を受入れている。人文学部には日本語学科に加えて日本研究センターもある。チェンマイは京都のように美しい古都であり、文教と観光の都市である。標高は約300mあり、バンコクに比べて気候は涼しく、日本人には暮らしやすい。2019年10月14日付の同大学のホームページには、我国の台風19号による被災者へのお見舞いが掲載された。

交流実績（平成30年度～令和2年度）

年度	教育学部			経済学部			法学部			創造工学部		
	H30	H31	R2	H30	H31	R2	H30	H31	R2	H30	H31	R2
受入・派遣												
学生の受入	1	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学生の派遣	6	0	0	10	0	0	0	0	0	4	8	0
研究者・職員の受入	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
研究者・職員の派遣	3	1	0	1	0	0	0	0	0	3	3	0
オンライン交流参加者（本学）			56			0			0			6
オンライン交流参加者（相手機関）			37			0			0			4

年度	農学部			医学部医学科			医学部看護科			インターナショナルオフィス		
	H30	H31	R2	H30	H31	R2	H30	H31	R2	H30	H31	R2
受入・派遣												
学生の受入	1	2	0	0	0	0	6	6	0	3	1	1
学生の派遣	16	1	0	10	4	0	8	6	0	0	0	0
研究者・職員の受入	1	1	0	2	3	0	3	4	0	0	0	0
研究者・職員の派遣	2	3	0	7	3	0	5	3	0	4	1	0
オンライン交流参加者（本学）			1			100以上			0			0
オンライン交流参加者（相手機関）			1			1000以上			0			0

教員・学生からの声

教育学部とCMUの人文学部は2011年2月に細則を結びました。教育学部では、毎年3月頃にチェンマイ大学人文学部に学生を連れて行きます。約2週間程度の異文化交流プログラムの特徴は下記の通りです。1) バディー制度。タイでの活動は主にCMUの学生と一緒に。2) チェンマイで日本語を勉強している高校生の家族とのホームステイ。3) タイの地方の小中学校を訪問し、3泊4日の交流・ホームステイ。4) CMUでCMUの教員によるタイ文化・歴史・経済・少数民族等の授業を受ける。5) 事前研修で、出発する前にタイ語の授業を3回開いてからタイに行く。また、夏にはCMUの学生を受け入れており、このプログラムでは、1) 附属学校での授業参加・タイ文化・タイ語の紹介等。2) 教育学部での授業参加。3) 日本文化に触れ、異文化を体験する。といった特徴があります。教員を目指している学生にとっても、コミュニケーション能力を育成するのにとても役立ちます。

教育学部教授 佐藤 明宏

チェンマイ大学は多種多様で自由な大学です。数多くの学部学科があり、様々な国籍の学生が多くいます。私はチェンマイ大学に社会学部生として留学しましたが、経済学や人文学、政治学等のクラスを受けました。ですので、様々な学部の先生に教えてもらい、より幅の広い知識・経験を積むことが出来ました。また、チェンマイ大学は敷地面積が広いことも魅力的です。広大なキャンパスを大学の無料バスで行き来する生活は、日本ではなかなか味わえなかったと思います。そして、タイでは日本のことが好きな方が多いので、大学やお店等で会う方々にはとても喜んで接してもらえました。日本や日本人のことを、タイの方がどのように思っているかを実感できるよい機会でした。チェンマイ大学生として4ヶ月間生活出来たことは、今でも本当によい経験だったと思っています。

法学部4年生 東 祐太郎

6年前から香川大学経済学部とチェンマイ大学経済学部間において、学部学生及び教員のShort Visitの交流を行っています。その中から数名はあとでSemester Visitに行きます。

予算等の関係で、昨年はShort Visitに行けませんでした。それでもIOのプログラムで経済学部より2名が勉強のためにチェンマイ大学に行きました。

2018年8月末に10名程度の学生をチェンマイ大学及びインドの大学に連れていき、両大学で観光の経済学の勉強をしました。去年、経済学部中心のJoint Symposiumに1名の研究者が論文発表のために来てくれるなど、今後、ますますの交流が期待できます。

経済学部教授 ラナデ. R. R

私たちは医学部医学科の医学実習II科目の一環として、2020年2月17日から3月6日までの3週間、タイのチェンマイ大学医学部附属病院にて実習をさせていただき予定でした。配属先は私たちの希望によりInternal Medicineに決定し、1週目は循環器・呼吸器の男性病棟での朝と夕方の回診が主な実習でした。回診での学生への手厚い指導、医師国家試験のレベル以上の講義、休日にも講習がある等、タイの医学教育のモチベーションの高さに感心したものです。しかし、新型コロナウイルスの影響により2月25日から29日まで寮に隔離され、3月1日には日本に帰ることとなりました。隔離中はストレスを感じることもありましたが、チェンマイ大学の医学部生や日本に来たことのある看護師さんたちの気遣いのおかげで、乗り切ることができました。このように、予定とは異なる短い留学でしたが、貴重な体験を得ることができました。

令和2年度医学科6年生 廣西 紋

私たちは一昨年、2週間チェンマイ大学へ行き、現地の学生と交流をしたりタイの文化を感じたりすることができました。しかし昨年からのCOVID-19の影響で例年のような学生派遣が行えない状況となりました。そのような中、チェンマイ大学主催のzoomによるオンライン交流会が2021年7月に開催され、協定校の学生や教員が参加して、8つの項目についてグループに分かれて意見交換をしました。私達は「COVID-19の状況と規制」について他の学生達と意見を交わし、他学生の大学生活の様子、各国の感染状況や拡大防止対策について知ることが出来ました。このような状況下でもオンラインの普及により、各国の学生と同時に今回このような充実した時間を過ごし、お互い学びを深めることができたことをとても嬉しく感じました。そして今後も、多くの学生がオンラインを通して他国の学生達と交流する機会を活用し、新しい留学のあり方が広まって欲しいと思います。

看護学科4年生 磯崎実矩 廣野七望 松岡みゆ 山野楓果

私たちは今年、2021年12月にチェンマイ大学を含む5つの大学でさくらサイエンスプログラムの支援によりzoom上での国際交流を行いました。このプログラムでは、それぞれの大学が特色・地元紹介するとともに、将来の交通に関する政策の方向性について議論を行いました。海外の学生たちと、それぞれの都市が抱える問題について議論することができ、日本と違った都市・交通問題や解決策への様々な視点を知ることができたと思います。オンライン上でしたが、このような形で国際交流ができたことに、非常に嬉しく思いました。新型コロナウイルス問題が終息したら、ぜひ海外の都市の現状を見ることに加えて、学生とも交流し、コミュニケーション能力についても身に付けたいです。

創造工学部4年生 中地遥菜

本学とチェンマイ大学(CMU)との学術交流協定の締結後に、二度のJICAプロジェクト(1993-98, 2003-06)で、多くの教員・研究者が往来して植物バイオテクノロジーや省農業技術の指導・研修が行われ、これが希少糖、生物資源利用、農業経済、植物病理・栄養、昆虫等の多様な共同研究に進展しています。CMUの農・農産・理の3学部から多数の優秀な留学生を受け入れ、特に2002年からのAAP特別コースによってその数が増えました。両大学間の広範で多数の交流実績に基づき、本学はCMUを海外国際交流拠点校と定め、そのプラットフォームとして2007に第一回合同シンポジウムをCMUにて開催し、農・工・医学部等の教職員・学生45人が参加しました。その後、交流は文系3学部等にも拡大し、2回目を2008年に本学にて(CMUの43名を招聘)実施し、以降隔年で交互に開催しています。2009年からの農学研究科のアジア人財資金構想事業以降、食の安全を学ぶ留学生を輩出し、JASSO支援のSSやSVプログラムの実績も挙げました。修士課程のダブルディグリープログラムが2012年から(CMUは農学と農産学の2研究科)始まり、CMUからはこれまでに花き園芸学、植物病理学、食品化学、昆虫生態学、応用酵素化学で7名受け入れ、本学からは昆虫生態学で2名派遣しました。研究者の交流では、さくらサイエンスプランに毎年1名の教員を農産学部から受け入れており、他方、農産学部の実施する国際シンポジウムInternational Conference of Food and Applied Bioscienceには2,3名の本学教員、学生が招待を受け、研究交流を2年おきに実施しています。

農学部教授 田村 啓敏
片山 健至

インターナショナルオフィスはCMUに学生派遣をしている一方、CMUから学生の受け入れもしています。まず、「Explore」というプログラムを通して、本学の学部生を交換学生として派遣しています。通常は年に2、3名を派遣しています。派遣先は社会学部と経済学部です。受け入れは、日本語と英語による授業を含むSanuki Programという受け入れプログラムを実施して、特別聴講生を受け入れています。他に国費の「日本語日本文化研修留学生」も同大学の日本語学科から受け入れています。

インターナショナルオフィス教授 ロン・リム